

## 1. 現状の概要と今後の方向性

フットサル 委員会・連盟

## 1. 現状の概要

老若男女いずれの人々にも手軽に行えるフットサルの普及は、サッカーファミリーを拡大するための重要なポイントであろう。さらに、サッカー強化への活用や、競技フットサルの強化も常に存在する課題である。サッカー協会においては、フットサル委員会とフットサル連盟が連携してフットサルを統括している。2020年以来、新型コロナウイルス感染症の拡大およびその防止のため、全国・北信越地域・新潟県、各レベルで大会や活動が縮小・制限されてきたが、今後はwithコロナの方針のもと新たな目標の達成を目指したい。

フットサル委員会では全種別大会を展開しているが、各大会は実際には種別委員会において計画、実施されており、本県においてはサッカーとフットサルがある程度シームレスな形で実施されている。このことは新潟県の特徴であり、強みであるとともに、弱みにつながっていることも考えられる。また、民間フットサル施設の増加、市町村協会フットサル大会の開催、3、4種年代におけるフットサル大会参加選手数が全国トップレベルを維持できていることなど、普及についてはある程度の成果があげられている。しかし、これまでの女子および2種年代に加えて、シニア世代への普及を今後の大きな課題として解決にあたりたいビーチサッカーについては、全国大会予選と普及のためのワンデー大会やクリニックの実施を継続し、プレー環境の整備を進めていきたい。しかし、北信越ビーチサッカーリーグへの参加チームが減少し、リーグとして活動できていないこともあり、プレーヤー／選手数が増加しない現状において、新潟県ビーチサッカー連盟設立、リーグ発足には困難がある。

## 2. フットサル・ビーチサッカーについての基本的な考え

○フットボール文化、スポーツ文化の浸透とフットサル、ビーチサッカー

他のスポーツと比較して、フットボール(サッカー、フットサルなど)はルールがシンプルで必要な用具も最小限であることから、世界で最も普及しているワールドスポーツである。中でもフットサルは、腕と手でボールを扱えないという非日常性を持つフットボールに、常に生活に近いところで手軽に触れられるものという特徴も持つ。しかし、その奥行きは深く、次第にその奥深さに魅せられていくというフットボールの特徴を凝縮したスポーツである。従って、フットボールとともにある生活、スポーツとともにある生活、言い換えれば文化としてのフットボールやスポーツを実現していく上で、フットサルは大きな鍵を握っていると考えられる。

○フットボール文化のプロモート

学校教育でも取り上げられ、メディアの露出も比較的多いサッカーについて、全くその存在を知らず、経験もないという人は我が国ではほとんどいないと考えられ、フットサルについても次第に知られるようになってきている。この意味では、「フットサルは黎明期を脱し

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

て安定期へ入ってきていると考えられる」と、前回のアクションプランの冒頭で述べたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大会や選抜活動の縮小や制限に加え、チーム/プレーヤーも活動レベルを下げている現状もあり、チーム/プレーヤーへのサポートにも力を注がなければならない。サッカー、フットサルのプロモートは、常に継続していく必要があることを再認識している。フットサルについては、サッカー経験者へは第2のフットボールとしてプレーを継続する機会をより多く設け、フットサルにおいても競技として高みを目指すプレーヤーをさらに増やしていきたい。この方向性については、新潟県フットサル連盟が担当していく部分が多いであろう。専門的なサッカー経験のない人にはフットボール文化への入り口として、まず手軽にプレーしていただく機会を増やすことが重要であると考えられる。こちらの取り組みについては、各フェスティバルを委員会として開催するほか、民間フットサル施設との連携が不可欠である。

さらに、より高いレベルのフットサルに多くの人に触れるためにはフットサル国際大会、各種全国大会、Fリーグ試合のプロモート、Fリーグ参加チームの誕生も目標となってくるであろう。2022年度より、Fリーグへの参加を目指すチームが県フットサルリーグに参戦していることは、明るい材料である。

## ○フットサルと新潟県の状況

冬季に雪や雨のために屋外でサッカーをプレーすることが困難な新潟県においては、フットサルはエンジョイプレーヤーレベルの普及においても、サッカーの強化においても大きなポイントであると考えられる。この点は3、4種年代の大会への参加チーム/プレーヤーの多さからも、県内のフットボール関係者に十分に理解されていると考える。

また、このような大会への参加は、あくまでもサッカーのオフシーズンでの活動として捉えられている部分も大きいように感じている。3、4種年代においては全国的にも有数の大会参加チームが多い県となっていて、このこと自体は望ましいことであると考え、**「大会参加としてのサッカーもフットサルも」**という現状も、**「意識としてはサッカーがメイン」**であると感じている。全国における傾向も同様であると考えられるが、これらの年代以降の競技フットサルへ繋げていくためには、プレーヤーが2種、あるいは大学生年代からフットサルに専門的に関わり始めることが重要であり、サッカーで手一杯のチーム/指導者には余力がないことも十分に想定できるものである。この点から、競技フットサルにおいては、サッカーとフットサルにおいて、活動を分ける必要性も感じている。

## ○競技フットサル経験者の再活躍の場

上記のように、競技フットサルを牽引し、新潟県内でフットサルの普及・振興していくために、マンパワーの充実は不可欠なことである。このためには、フットサルに専門的に関わった経験を持ち、現在は北信越・新潟県フットサルリーグなどの第一線からは退いている元プレーヤーからの、フットサル委員会・連盟に参画が鍵を握ると考えている。

また、これらの人々の多くは、プレーヤーとしての力量の低下や、職場や家庭での負担の増加などが原因となって競技の第一線を退い

たものと思われるが、彼・彼女らが余裕のある年代となってプレーを楽しむ場の創設も進めていきたい。手軽にプレーできるフットサル

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

の特長を、フットサルの楽しさを知る人々に体現してもらいたいと考えている。

## 3. 活動の方向性

## (1) 「フットサル」「ビーチサッカー」のプロモート

フットサルは安定期、ビーチサッカーは黎明期とはいえ、多くの人々に知っていただく活動は継続して行っていかなければならない。学校教育でも取り上げられ、学校の運動部活動としてサッカーは広く知られているが、フットサルは学校のサッカー部ではあまり行われていない現状もあると思われる。このことは、クラブチームが優勢となっている3、4種年代の大会参加チーム/プレーヤーの多さに比較して、2種年代ではようやく全国大会が軌道に乗り始め、本県代表チームが全国優勝している現状にもかかわらず、大会参加チームが極端に少ない現状からもうかがい知ることができよう。

まず、一般的な形での以下のようなプロモートを継続し、さらにより積極的に行いたい。

- ・メディアへの露出の増加：マスメディアとの連携
- ・ICTを活用した情報展開：県サッカー協会HPの活用、フットサル連盟HPの充実、LINE、Facebookなどの活用
- ・エンジョイレベルのプレー経験機会の増大：多様なフェスティバルの開催、クリニックの開催
- ・より高いレベルのプレーを観戦する機会の増大：国際大会、全国レベルの大会、Fリーグ試合の誘致、Fリーグチームの誕生

## (2) 重点ポイント

## 1) 2種年代（および大学生年代）

新潟県内においては、3、4種年代で経験をしているプレーヤーが多いものの、2種年代、および大学生年代がボトルネックとなっている。2種ではJFA主催の全国大会が発足し、2種サッカーチームにおける認知度はアップしているであろうが、大会参加チーム数増には反映されておらず、大きな課題として残っている。2種年代へのプロモートは、1種年代のプレーヤー増加につながることを考えられるため重要な課題であるとする。

2種年代の現状としては、高校サッカー部がほとんどのプロモートの対象者となるため、サッカー部の指導者の考え、環境や人材の課題などがあり、大会参加チームが増えていない。また、サッカーを中心に考えるプレーヤー/チームのみならず、フットサルへの緩やかな専門化も図っていくことも必要であり、この場合にはチーム運営のサポートなども必要になるかもしれない。

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

大学生に関しては、やはりサッカー部の中でのフットサル活動には制限が多く、リーグ参加に至るためにはフットサル部・サークル発足に対してのサポートが重要になると考える。また、チームではなく、プレーヤーへのサポートとして、それぞれの学校・大学外のチームの紹介なども、競技フットサルを志すユースへのサポートの形であると考えている。

## 2) シニア

これまでに新潟県フットサルリーグ、北信越フットサルリーグが発足し、100を下らないプレーヤーが第一線を去っていったが、その後エンジョイレベルでプレーを続けている人はあまりいない現状である。競技引退の理由は様々であるが、本人の競技力の低下、家庭や職場での負担増や多忙化、転居などが考えられる。しかし、このような人たちも時間の経過とともに、さらに体力の低下はあるものの自身の時間を確保することが再び容易になっていることも考えられる。このような人々はフットサルの楽しみ方を知る人々でもあり、シニアへのプロモートは重点ポイントとなる。とはいうものの、委員会・連盟で大会やイベントを開催するには規模が大きくなり、参加が困難になる可能性もあり、実施形態についての工夫が必要であろう。また、シニアの皆さんが再びプレーを始めることで、この中で委員会・連盟スタッフに協力していただける人材となっただけなくとも期待したい。

## 3) 女子

サッカー協会、フットサル委員会・連盟において、常に課題となり、解決に至っていないものが、女子プレーヤー／チームを増やすことである。決定的な方法は見つかっていないものの、スタッフの中に女性が徐々に増加してきており、打開策を見出していきたい。

上記の三つのポイントはいずれも、まだプレーヤーが少数でありことから、むしろ今後発展が期待できるポイントでもある。

また、これらのポイントに対しては、明確に担当者を決めて、アイディアを集め、事業展開していきたい（組織的課題）。

## (3) 組織マネジメント

ここまで述べてきたように、フットサル・ビーチサッカーに関わって、多くの課題がある。これらの課題をクリアし、改善をはかっていくためには、組織マネジメントは不可欠である。今回のアクションプラン見直しの中で、今後求められる事業展開のために必要なアクションが明確になってきた。必要な部署を明確にし、適切な人材と予算を割り当て、プランを実行していきたい。

ヒト:委員会・連盟の活動は、人に支えられている。指導者、審判員のみならず、大会運営を支える人、組織を運営する人が必要である。3、4種においては、それぞれの種別委員会との連携が取れていることで、人材は確保されている。2種については、大会の担当者は確立されており、大会が拡充することで、運営体制も確立されていくものと考えている。今後リーグを展開していく上では、人材の確保も急務である。女子については、チーム/選手が少ないことから、運営体制の確立もすぐには可能とならないであろう。担当者は確立しているが、担当者を補佐し、組織運営に関わることのできる人材の育成が必要であろう。ビーチサッカーについても担当者は確立しているが、

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

課題が多く山積しているため、担当者を中心として、いずれは連盟として組織化していくことが必要である。

フットサル委員会・連盟ともにわずかな人材が多くを動かしている現状があり、長い間改善の必要性を指摘しているにもかかわらず、進んでいない現状がある。また、各種フェスティバルを行うにも人材が必要であり、自身のプレーしていない場で運営を行うことのできる人材の育成も急務であろう。

また、2018年度より北信越サッカー協会フットサル委員会の中に技術担当者を置くこととなり、各県での技術担当を置くこととなった。これにより、県フットサル委員会に技術担当1名を置き、強化と指導者養成に関して進めていくこととなった。また、このフットサル委員会技術担当は、県サッカー協会技術委員会内のフットサル担当も兼務することで、サッカーとフットサルの技術関連事項についての連絡役も果たすこととなっている。

カネ:大会、フェスティバルの充実、選抜活動の充実、組織拡充には経費の捻出が不可欠である。大会スポンサーを県大会レベルで獲得することは現状では困難であり、全国大会の予選として協賛金を得ていきたい。JFAの支援金も積極的に活用し、諸活動に反映させていきたい。

モノ:選抜関連の備品、消耗品、電光掲示板、デジタイマ、ファウルカウンタ、などの管理、入れ替えについては常に留意していく必要がある。現状では関係者の自宅などでの管理となっているが、倉庫の借り上げ等が必要であり、経費が必要となる。

情報:フットサル・ビーチサッカーのプロモートにおいて、情報発信が1つめのポイントである。公式サイトを充実させ、大会情報、選抜情報などの他にも、県内のフットサルに関する情報の発信基地として位置付けたいと考えている。しかし、このために情報収集・取材を専門的に行うことはマンパワーと予算の問題としてできない。そこで、双方向の情報ツールとしてSNSの有効活用を考えていきたい。このため、専任の広報担当者は不可欠であるとする。

2つめのポイントは、組織内のコミュニケーションである。種別、地区、委員会、連盟、さらには民間ピッチなどが課題を共有し、業務を分担し、連携するためにも、より多くの人材が組織に関わるためにも、円滑なコミュニケーションを図っていきたい。

また、社会から求められているコンプライアンスの問題について、求められている内容に対する理解を深め、十分な検討の後に、規定などを策定し、遵守していきたい。

## (4) 指導者、審判員の育成

現場でのフットサル活動を支える指導者の育成は常に重要な課題である。JFAのライセンスコースも、指導者のライセンス取得に向けての改善が図られている。また、地域リーグではチームスタッフにフットサルC級以上の指導者が必須となっており、県内チームのライセンス保持者を増やしていきたい。

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

また、ライセンス講習会以外にも内外の指導者を招いての、トップレベルクリニック、指導者講習会を開催し、県内指導者のレベルアップの機会を増やしていきたい。以前、JFAフットサルタレントキャラバンを指導者ライセンスリフレッシュコースとして実施しており、指導者養成へのアクションを継続していきたい。

審判員の養成については、審判委員会の担当であるが、フットサル委員会・連盟との連携の上で実現されていくものである。具体的には、大会を使つての講習会開催、強化審判員の割り当てなどに加え、県リーグのチーム帯同審判員を3級以上とするなどが考えられる。

## (4) 各方面との連携

上記のような課題の解決には、サッカー協会内では「種別、地区、委員会、連盟の連携」が必要であり、さらには「会場となる施設」「地方自治体や指定管理者」「民間ピッチとの関係」は、事業を展開し、理念を実現させていく上で重要な課題であり、積極的にアプローチしていく必要がある。

特に、大会・フェスティバルを拡充させていくために、会場の確保は重要である。さらに、2015年度から、会場となる体育館使用料がいくつかの自治体で高騰してきており、会場確保、使用料減免、自治体とのパイプ役などに関しても、地区委員会の協力が不可欠である。また、2025年度には全日本女子選抜フットサル大会の誘致も計画している。大会実施には、大会スポンサーの意向としての新潟市内での開催、大会主催者である日本フットサル連盟におけるピッチや観客席などの大会規定にマッチする会場の確保には、これまでにフットサル大会の開催実績のない会場からの協力、新潟市内宿泊施設からの協力、一般ボランティアの募集と採用など、協会内では解決できない課題が多く、協会外との協力関係の確立が不可欠である。

## 3. 種別・地区の状況と今後の方向性

## (1) 男子競技レベル

競技フットサルを牽引するのは、北信越・新潟県フットサルリーグに所属する連盟加盟チーム/選手である。北信越フットサルリーグは、2017年度に2部化され、1・2部合わせて本件からは常時4～5チームが参加していたが、2022年度には3チームとなっている。戦績については、リーグ優勝を争う年度もあれば、残念な結果となる年度もある。県リーグについては、2部構成で行われていたものが、現在では1部のみとなっている。競技人口の減少は全ての種別で見られているものの、少子化前の年代であるリーグ参加者が減少していることは憂慮すべき問題と認識している。参加チームの中には選手層の年齢が高くなり、新しいメンバーを入れる必要のあるチームも少なからず存在している。社会人年代の選手が増えるためには、その準備期としての、2種年代、大学生年代でのプレー機会が大きな影響力を持つことが考えられるため、これらの年代へのアプローチも含めてトップレベル強化を考えていく必要がある。

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

リーグ参加選手で構成される新潟県選抜については、こちらも全国大会に出場できたり、できなかつたりというところである。プレーヤー／チームの強化は、チームマターであり、委員会・連盟が主導することではないものの、可能なサポートの方法をチームと探っていく必要もあると考えている。また、選抜チームの戦績に関しては、監督の選任、選抜のステイタスアップ、情報提供、指導者養成など、委員会・連盟が主導的に関わるべきこともあり、積極的に進めていきたい。また、県選抜活動につながるものとしてのU-23選抜活動も、新型コロナウイルス感染症での中断から大会が再開されるため活動を充実させたい。

また、県リーグトップリーグにつながるリーグとして実施したい冬季リーグについても、新型コロナウイルス感染症の関連で中断していたが、再度体制を整えて再開したいと考えている。冬季リーグは、U-23選抜がチームとして参加することで強化の場とするのみならず、リーグへの参加を考えているチーム／プレーヤーがリーグを経験する普及・振興の場である。

また特記事項として、Fリーグ入りを目指すチームが活動を開始し、2022年度より県リーグに参戦している。各種別の全国大会での活躍の歴史をもつ長岡地区でのチーム立ち上げであり、トップレベルの試合を県内で見られる機会の創造でもあり、フットサルプレーヤーの目指す場所ができることの意義は大きい。フットサル委員会・連盟としても十分にバックアップしていきたい。

## (2) 女子競技レベル

女子については、現状では県リーグがなく、北信越女子フットサルリーグに2チームが参戦している。この2チームに数チームを加えた数のチームで、全日本女子フットサル選手権の県大会が行われている、というのがこのところの状況である。県女子選抜チームは、この2チーム+αで構成され、2022年度には北信越大会を突破して全国大会に出場している。

また、2025年度には全日本女子選抜フットサル大会の誘致も目指しており、これを起爆剤として県内の女子フットサル普及・振興を進めたいとともに、北信越予選免除で出場できる全国大会に向けて、プレーヤーの強化も進めていきたい。そのための一つのポイントとしての県女子リーグについても目指すものの、リーグ発足が間に合わなくても強化を進める体制も整える必要がある。

まずは、県女子フットサルリーグが発足を目指した普及大会が開催できるように動いていきたい。現在北信越リーグに参加しているチームの協力を得ながら、女子の競技フットサルを発展していけるようにしたい。この普及大会が成功し、小規模でもまずは県女子フットサルリーグが開催していけるようにしたい。

## (3) 2種年代

2014年度より全日本U-18フットサル大会が始まり、4～1種までフットサル全国大会が整備されることとなった。このことは、3,4種年代

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

でフットサルプレー経験を持つ県内サッカー選手にとってはとても重要である。県大会、北信越大会、さらには全国大会を2種年代でも経験することは、選手たちの高校卒業後のフットサルプレーへの親和性を高めることにつながると考えられる。これまでにこの大会では、県代表が目覚ましい活躍を見せ、この大会を経てFリーグ入りした選手も生まれている。ただ、公式大会があることで、高校においてフットサル部が認められることにもつながる可能性が高まると以前は考えていたが、この点については、大会ができて以降、県内でフットサル部発足の話は聞いていない。ただ、2種年代からフットサルを中心にプレーしたいと考えるプレーヤーも少なからず存在していることが考えられ、フットサル部でなくとも、サッカー部としてフットサル大会に出場することで、部員数が確保できないサッカー部にとっても公式試合出場のコツが増えることになる。この点からもこの大会の意義は大きく、より発展させていきたいと考えている。ただし前述しているように、大会の時期、サッカーとフットサルについての指導者の考え、トレーニング環境、フットサル指導者の存在などのチーム事情から、高校サッカー部からの大会参加数が増えていかない現状がある。なお、参加規定としては全日本フットサル選手権大会に2種年代も出場できるが、現実的にはこの数年、2種チームの全日本選手権新潟県大会への出場はなく、2種年代については、ユース(U-18)大会を中心に進めていくこととなる。また、この年代の選抜活動としては、日本フットサル連盟が主催するユースフットサル選抜トーナメントが2017年度まで開催されており、こちらでも本県代表がめざましい成果を上げてきた。戦績としては数回の全国優勝を勝ち取っているが、何よりも大学進学後などにフットサルを専門的に行う選手がより多く出現していることが大きな成果であると考えている。日本フットサル連盟主催の大会としては2018年度以降休止しているが、有志での実施が進められている対抗戦に今後参加することで、2種年代でのより高いレベルでの大会参加の機会を増やしていきたい。ただ、選抜活動の運営には、経費、スタッフ、トレーニング、会場などさまざまな困難が伴うので、JFA支援金を活用、2種年代の指導者の力を活用していきたい。

また、今後の2種年代の方向性としては、この年代からのゆるやかな競技フットサル専門化を進めることを狙って、県2種フットサルリーグの立ち上げについて、検討を進めたい。

## (4) 3種年代

3種年代では、大会参加チーム数、大会成績ともに北信越地域では他県の追随を許さず、県代表チームが全国大会優勝も何度も成し遂げている。しかし、この数年、若干戦績の上では低迷気味でもある。また、県大会予選参加チーム数を見ても、2022年度は全県で92であり、全盛期に200近くあったことを考えると半分程になっている。内訳としては複数チームを出しているチームが全体数の大半であり、母体チーム数で考えればさらに半分程である。一方で、参加チーム数が多い事から中学2年次の2月に県代表となったチームが、中学3年次の12月に行われる北信越大会までは公式戦としてのフットサルを行わずにチーム作りをする難しさがある。コロナの影響を受けて11月に開

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい



## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

催した2022年度県大会では例年の県大会からおよそ9ヶ月を経たサッカーシーズン後であり、中学2年次の冬開催とは違う大会となった。サッカーカレンダーを見る限り、県大会日程としては11月～3月しか空いていない現状ではあるが、さらに違う形での大会開催や、フットサルリーグの開催を視野に考えていきたい。

## (5) 4種年代

4種年代では、バーモントカップ全日本少年フットサル大会と東北電力杯新潟県少年フットサル大会が公式大会としてある。2つの公式大会があることが、すでに新潟県のアドバンテージである。加えて、各市町村で冬季にフットサル大会が行われており、県内サッカー関係者の苦労と工夫を知ることができる。バーモントカップについては、全国大会の開催時期が8月に移行したことから、県大会は3月に、地区大会は1～2月に行われることとなった。また、強化を目的に、各県代表が集まる北信越大会も7月に開催されることとなった。このこともあり、従来地区選抜チームで出場するケースも多かったが、単独チームでの参加も増加している印象がある。また、県大会チームの選手エントリー数も12から16名となり、より多くのプレーヤーが大会に参加できるように変更した。東北電力杯については、6年生の最後の公式大会となるため、毎年白熱した大会となっている。バーモントカップの県大会が5年生の3月に終了してしまうため、この大会の意義は大きなものとなっており、両大会を中心に今後も4種年代は充実した活動を継続していきたいと考える。

大会参加チーム／プレーヤー数は、過去5年間で減少傾向である。これは、少子化によりチーム自体が維持できずに解散するケースのほか、サッカーのみ取り組むという方針を打ち出すチーム（アルビヤグランセナ）が現れたことによる。特に有力チームがフットサルは行わない方針としていることは残念である。

・東北電力にいがた杯新潟県U-12フットサル大会 2017年度；140チーム／1,840人 ⇒ 2022年度；123チーム／1,596人

・JFAバーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会 2016年度；130チーム 1,734人 ⇒ 2021年度；114チーム 1,419人

※上記のうち、フットサル登録をしているのはバーモントカップに出場しているトレセン2チームのみ

また、大会への参加資格として、これまではサッカー4種登録チームのみが、登録チームあたり1チームのみの参加であったが、上記のような参加チーム／プレーヤー減少もあり、今後検討（条件整理）していきたい。

・東北電力にいがた杯＝サッカーチームとして協会登録している単独チームから1チームのみ出場可能

・バーモントカップ＝上記のほか、トレセンチームに限ってフットサルチーム・選手登録をすれば出場可能

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

## (6) 女子（トップ以外）

全日本女子ユース(U-15)大会の参加チームは3チーム程度であり、依然として低迷している。U-15大会の北信越大会では、2022年度初めての県代表が全国大会に出場できた。結果は予選敗退(2戦2敗)に終わったが、このチームはフットサルに特化しているチームでもある。今後の活躍に期待したい。

女子サッカー選手の活動の現状としては、女子チームでの登録ができた場合でも、種別でのチーム編成が困難な状況もあり、大人の大会に3・4種の選手が出場していることもあり、種別として考えることは難しい現状がある。

## (7) シニア年代

冒頭でも触れたが、シニア世代も今後の活動の重点ポイントである。現在ではトップを退いたプレーヤーがプレーできる場は、フットサル委員会・連盟ともに、用意できていない。ニーズを調査し、参加チーム/プレーヤーを掘り起こしていきたい。シニア世代にプレーの場を提供することには、フットサル連盟・委員会の活動への参加・協力も期待できると考えている。

ただし、県全体としてシニアリーグ、シニア大会を実施することは、大会への参加しやすさ、運営のしやすさの面で困難が予想されるため、地区で行われているイベントなどを参考に開催を検討したい。

## (8) ビーチサッカー

ビーチサッカーについては、まだ黎明期であると考ええる。かつてフットサルがそうであったように、まずこのスポーツの存在そのものを多くの人に知っていただくことが大きな課題としてあげられる。ただし、20年前のフットサルの状況と異なるのは、現代のICT環境にある。情報を提供、展開するツールは身近にあり、その活用は大きなポイントであろう。とはいえ、メディアへの露出も大きなポイントであり、実際にプレーをしているところを目の当たりにしたり、プレーを経験したり、といったことも重要であり、さまざまなアプローチを試みる必要があると考える。

競技に関しては、2016年度に北信越ビーチサッカーリーグが発足した。女子フットサルと同様に、県リーグを構成するだけのチーム数が現在はないため、まずは北信越リーグをきちんと確立させ、新潟県チームがその中でしっかりと戦うこと、そのために競技力向上をはかること、などが重要であり、リーグ運営に対して、新潟県サッカー協会としてもサポートしていく必要であると考ええる。

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

現行の競技力としては、北信越大会は常に代表権を県内チームが獲得しているものの、全国大会では実力差を見せつけられている。全国に通用する力をつけていきたい。また、女子については、サッカー協会非公認ながら東日本女子ビーチサッカーリーグを発足させ、振興をはかっている。この活動も継続させ、やがては地域での女子ビーチサッカーリーグにつなげていきたい。

【普及】 競技人口・チーム数増加目標に対して達成度マイナス成長傾向→新たな施策が必要

【育成】 県内チームから日本代表候補2名輩出→継続

【強化】 大会数が少なく県内での強化が難しい→新規大会を創設していきたい

【審判】 ビーチサッカーの審判員がまだまだ少ない→積極的に選手の資格取得を促していく

【指導者】 AFCビーチサッカーコーチングコースレベル1 受講者1名→継続

【トップリーグ連携】 2023年ビーチサッカートップカテゴリー強化リーグ参戦予定（FUSION）→継続

## (9) 地区協会

<下越地区> 下越地区において1種年代のフットサルチームが人口減少に伴い激減しており下越地区フットサルチャレンジリーグにおいて2017年までは20チーム前後の参加があったが2018年以降徐々に減少しコロナ禍の影響もあり2022年には5チームにまで減少した。県リーグに参戦するチームも過去2チームあったが現在は無くなった。構成メンバーの年齢が上がるにつれ参加を見合わせるチームがあることから2021年度からシニアの部を新設、現状10チームにも満たない状況ではあるが今度参加チームが増える気配がある。

ファミリーフットサルフェスティバルについては年2回の開催が定着し地元4種一チームを中心に毎回参加者を募っていただいているもののコロナ禍の影響でここ2年は参加者数がコロナ禍前の2/3程度となっている。女子、ママさんのカテゴリーではファミリーフットサルで集まった参加者で混成チームを作り2、3試合程度行っているがその場限りで終わってしまい、それをきっかけにチームで活動というところまでは行きついていない。

<中越地区> 2,3,4種に関しては、県内フットサルの中心とも言える地区であり、多くのFリーガーや日本代表選手を輩出している地区でもある。また、以前は中越地区リーグが開催できるほどのニーズがあったが、同リーグから多くのチームが県リーグに活動の場を移したことなどから現在同リーグは行われていない。地区全体としては、長岡、三条を中心とした地区北部での活動は盛んである一方、魚沼、十日町を中心とした地区南部での活動はやや停滞しており、有効な振興策は見つかっていない。また、各種別関係者の連携による、地区としてのフットサル振興も課題であると考えている。2022年度には長岡からFリーグを目指すチームが誕生しており、今後の動向が注目される。

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 1. 現状の概要と今後の方向性（つづき）

フットサル 委員会・連盟

<上越地区> 2022年度には、北信越リーグに1チーム、県リーグに3チームが参戦している。また、上越協会主催大会として、謙信公杯が開催されているが、フットサル活動が盛んというわけではない。北信越リーグの上越地区開催などにより、競技フットサルの知名度を上げつつあり、上記の3チームを中心として、フットサルを振興していきたい。また、このところファミリーフットサルフェスティバルの開催がないため、再開、開催へ向けて努力したい。

<新潟地区> 北信越リーグ、県リーグともに地区から多くのチームが参加しているが、人口から考えると、公式試合に出場するチーム/プレイヤーは多いとも言えない。新潟市内には民間フットサルピッチも多く、エンジョイプレイヤーと競技者が分かれてきている現状もうかがい知ることができる、県組織の代表者が新潟地区の運営も担当している現状があり、新たな人材の参入が求められる。

## (10) エンジョイプレイヤー

委員会として「ファミリーフットサルフェスティバル」「キッズ(U-8)&ママ フットサルフェスティバル」を、JFAの補助金を得て開催してきている。リピーターも多いため、新型コロナの関係で中断していたが、エンジョイプレイヤーへのプロモートのため再開したい。

しかし、これらフェスティバルのみではより多くのプレイヤーのプレー機会の創造は難しく、民間フットサルピッチとの連携は不可欠である。さらに、JFAのj-futsal登録が廃止となったことから、エンジョイレベルのプレイヤー数の把握と、フットサル情報が広く展開できる方法を確認していきたい。

これまでの中期目標であった2022年目標の対しての達成度や現状、今後の長中期目標に対しての現状の概要、今後の大まかな方向性などについて書いて下さい

## 2. 中期目標（2030年）

フットサル 委員会・連盟

## 【登録】

フットサル登録数 1種連盟加盟 450 ← 319 (2019)、最多370 (2017)  
合計750名 1種連盟非加盟 200 ← 150 (2019)、最多183 (2016)  
(2016) 2～4種（サッカー登録でフットサル大会に出場できるため） 100名 ← 77 (2019)、最多83

## 【日本代表】

フットサル3名 ← 1名 (2019～21) ビーチサッカー2名 ← 0名(候補選手2名) (2019～21)

## 【大会成績】

U-15男子もしくはU-18のいずれかで、毎年必ず全国大会ベスト4以上となる  
全日本選手権、全日本女子選手権、U-15女子、バーモントカップ（U-12）、ビーチサッカーのいずれかで、毎年必ず  
全国大会出場  
地域チャンピオンズリーグ、地域チャンピオンズリーグ（女子）、全国選抜、全国女子選抜のいずれかで、毎年必ず  
全国大会出場  
ビーチサッカー、ビーチサッカー地域チャンピオンズリーグのいずれかで、毎年必ず全国ベスト8に入る

## 【全国リーグ参加】

Fリーグ 1チーム（2022現在0だが、目指して活動を開始したチームあり）  
ビーチサッカーリーグ 1チーム（全国リーグが開幕した場合には必ず参入する）

## 【全国大会開催】

2030年までに1回 2025年全国女子選抜フットサル大会を開催する

## 【スタジアム、アリーナ】

新潟県立アリーナ建設に向けてアクションを起こす

## 2. 中期目標（2030年）（つづき）

フットサル 委員会・連盟

## 【大会出場数など、種別ごと】

- <1種> 全日本フットサル選手権 加盟チーム20チーム、非加盟チーム10チーム 合計30チームの参加がある  
全日本女子フットサル選手権 北信越加盟チーム3チーム、その他チーム5チーム 合計8チームの参加がある
- 全日本大学フットサル大会 5チームの参加がある【大会出場数など、種別ごと】  
北信越フットサルリーグ 5チームが参加している  
北信越女子フットサルリーグ 3チームが参加している  
新潟県フットサルリーグ 2部構成となり、16チーム  
新潟県女子フットサルリーグ 開幕し、4チーム以上の参加がある
- <2種> 全日本U-18フットサル選手権 8チームの参加がある  
新潟県U-18フットサルリーグ 開幕し、4チーム以上の参加がある
- <3種> 全日本U-15フットサル選手権 100チームの参加がある  
全日本U-15女子フットサル選手権 8チームの参加がある
- <4種> バーモントカップ全日本U-12フットサル選手権 140チームの参加がある  
東北電力カップ新潟県U-12フットサル大会 150チームの参加がある
- <ビーチサッカー> 全日本ビーチサッカー大会 5チームの参加がある  
北信越ビーチサッカーリーグ 2チームが参加している

## 【指導者】

連盟加盟チーム（リーグ参加チーム）に必ず1名以上の有資格指導者がいる その他チームを含め合計 80名 ← 43名（2022）  
（審判員については、審判委員会の目標・計画を支持する）

## 【その他】

- <下越地区> ・フットサル専門施設の拡充、・県リーグ、北信越リーグに参戦するチームの輩出 ・シニア年代のリーグ定着  
・審判、指導者の充実 ・女子&ママさん大会の定着
- <ビーチサッカー> ・全国の強豪チームを招き親善試合を定期開催 ・AFC・FIFAビーチサッカーコーチングコースの受講者数増

## 2. 長期目標（2050年）

フットサル 委員会・連盟

## 【登録】

フットサル登録数	1種連盟加盟	600
合計1000名	1種連盟非加盟	200
	2種連盟加盟	100
	2～4種（サッカー登録でフットサル大会に出場できるため）	100名

## 【日本代表】

フットサル10名　ビーチサッカー5名

## 【大会成績】

U-15男子もしくはU-18でいずれかで、毎年必ず全国大会ベスト4以上となる  
全日本選手権、全日本女子選手権、U-15女子、バーモントカップ（U-12）、ビーチサッカーのいずれかで、毎年必ず全国大会ベスト8  
地域チャンピオンズリーグ、地域チャンピオンズリーグ（女子）、全国選抜、全国女子選抜のいずれかで、毎年必ず全国大会ベスト8  
ビーチサッカー、ビーチサッカー地域チャンピオンズリーグのいずれかで、複数回全国優勝する

## 【全国リーグ参加】

フリーグ 2チーム  
ビーチサッカー全国リーグ 1チーム

## 【全国大会開催】

フットサル、ビーチサッカーのいずれかで4～5年に一度程度開催する

## 【スタジアム、アリーナ】

新潟県立アリーナでフットサルの大会を実施している

## 2. 長期目標（2050年）（つづき）

フットサル 委員会・連盟

## 【大会出場数など、種別ごと】

<1種> 全日本フットサル選手権 加盟チーム24チーム、非加盟チーム16チーム 合計40チームの参加がある  
全日本女子フットサル選手権 北信越加盟チーム8チーム、その他チーム4チーム 合計12チームの参加がある

全日本大学フットサル大会 6チームの参加がある【大会出場数など、種別ごと】

北信越フットサルリーグ 6チームが参加している

北信越女子フットサルリーグ 4チームが参加している

新潟県フットサルリーグ 2～3部構成となり、24チーム

新潟県女子フットサルリーグ 6チームの参加がある

<2種> 全日本U-18フットサル選手権 8チームの参加がある

新潟県U-18フットサルリーグ 開幕し、4チーム以上の参加がある

<3種> 全日本U-15フットサル選手権 100チームの参加がある

全日本U-15女子フットサル選手権 8チームの参加がある

<4種> バーモントカップ全日本U-12フットサル選手権 140チームの参加がある

東北電力カップ新潟県U-12フットサル大会 150チームの参加がある

<ビーチサッカー> 全日本ビーチサッカー大会 5チームの参加がある

北信越ビーチサッカーリーグ 2チームが参加している

新潟県ビーチサッカーリーグ 10チームが参加している

## 【指導者】

連盟加盟チーム（リーグ参加チーム）に必ず1名以上の有資格指導者がいる その他チームを含め合計 120名  
（審判員については、審判委員会の目標・計画を支持する）

## 【その他】

<下越地区> ・各年代での地区リーグ開催 ・Fリーガーの輩出

<ビーチサッカー> ・海外の強豪チームを招き親善試合を定期開催 ・海外のクラブで指導する人材の輩出



NIFAアクションプラン2022→2026			全体 18 頁中の 17 頁		
4. 現状分析			フットサル 委員会・連盟		
No. と 事項	2026年具体的目標	2022年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
<委員会>					
委員会1. 普及	JFAフットサル登録者 750人	634名 (2016年度:コロナ前最多) 537名 (2019年度:コロナ前年) 408名 (2021年度)	85% 72% 54%	リーグ、大会への参加プレーヤー/チームが減少している	現存リーグへの参加を増やす 新規リーグの立ち上げ 現存大会への非加盟チーム参加促進
委員会2. 普及	普及イベント・フェスティバル フットサル6回 ビーチサッカー2回	5回 (コロナ前) 1回	83% 50%	新型コロナ関連で開催取りやめや、参加者減少が見られた	まずコロナ前の水準に戻す
委員会3. 育成	U-12大会参加チーム 130 東北電力杯U-12大会参加チーム 140 U-15大会参加チーム 100 U-15女子大会参加チーム 6 U-18大会参加チーム 6	114チーム (2021年度) 123 (2022年度) 92チーム (2022年度) 3チーム (2022年度) 4チーム (2021年度)	88% 88% 92% 50% 67%	少子化によるチーム/プレーヤー減少 " 出場しない3種チームが少なくない リーグ参加チームの関連チーム以外の参加が少ない 毎年参加の3チーム以外の参加が少ない	大会参加資格を見直し、参加を促進 " 出場しない3種チームへ働きかけ リーグ参加チームの関連チーム以外への働きかけを強める 担当者を中心に原因を究明し、参加を増やす
委員会4. 指導者	有資格フットサル指導者 55名	43名 (2022年度)	78%	リーグ参加チームで有資格指導者のいないチームがある ライセンス講習会が少ない 技術担当者が多忙である	リーグ参加チームでの有資格指導者所属の完全実施 ライセンス講習会を増やす 技術担当者に補佐をつける
連盟1. 普及	1種連盟加盟登録チーム 30チーム 1種連盟加盟登録者 450人	24チーム (2017年度:コロナ前最多) 15チーム (2022年度) 383名 (2017年度:コロナ前最多) 239名 (2022年度)	50% 85% 53%	加盟チーム数、加盟選手の減少	現存リーグ参加選手からの働きかけで 現存リーグへの加盟チーム/選手の増加 シニア、U18、女子の県リーグを立ち上げ、
連盟2. 強化	全国選抜フットサル大会、全国女子選抜女子は2022年度に出場 (2回目) フットサル大会のいずれかに毎年出場する	男子は5年に1度ぐらいの頻度で出場	50% 20%	女子リーグ参加チーム・選手数の伸び 2018年度以降2チーム30人前後で推移 プレーヤー若年層の減少	女子の新潟県リーグを発足させる U18の新潟県リーグを発足させる 北信越大学リーグに参加する
連盟3. 強化	Fリーグ加盟・準加盟チームがある	Fリーグ加盟チームなし 加盟意思のあるチームがある	0%	Fリーグ加盟意思のあるチームが少ない	加盟チームとの情報共有 Fリーグ参入意思チームへのサポート
連盟4. 普及	北信越大学リーグに参加するチームが	参加チームなし	0%	大学リーグに参加するチームを誕生	大学サッカー部への情報提供、 担当者の任命、チームへのサポート
連盟5. 普及	継続してU18フットサルリーグが開催	さ	0%	リーグ戦開催なし	U18新潟県リーグのブレ大会の開催 2種チームへの働きかけ
連盟6. 強化	U18チャンピオンズリーグに 新潟県のチームが出場する	リーグ戦がないため、参加資格もなし	0%	U18新潟県リーグの発足	2種チームへの働きかけ
連盟7. 普及	シニアリーグの設立	ブレ大会の開催実績なし	0%	シニアリーグのブレ大会の開催	シニアチームへの働きかけ
連盟8. 基盤	連盟組織の強化	連盟内の役割分担が不透明	30%	組織図の明確化と人員の適正配置	組織図を作成し、人員を配置させる
連盟9. 基盤	フットサル連盟が参加チーム主体で運営	リーグ戦においては参加チームの代表	80%	担当の明確化	組織図を作成し、人員を配置させる
連盟10. 基盤	連盟に広報担当を置き情報提供を進める	連盟ホームページは立ち上げ済み	50%	担当を置いて情報提供を推進する	組織図を作成し、人員を配置させる
女子1. 普及	県女子リーグの設立	県女子リーグがない	0%	選手・チーム数の増加	普及大会の開催
女子2. 強化	女子選抜チームは 全国大会に出場し 決勝ラウンドに進む	2022女子選抜全国大会に出場したが 予選リーグ敗退 1勝1敗1分	0%	女子選抜活動の認知度の低さ 能力の高い選手の発掘・育成 選手パフォーマンスの維持・向上	認知活動を行う 選手の勧誘 大会へのトレーナー派遣
女子3. 強化	北信越女子リーグへ 3チーム参加している	2チーム参加 (2022)	60%	フットサルのみ行なっているチームが フットサルにも力を入れている サッカーチームが少ない	フットサルチーム立上げサポート サッカーチームにもフットサルを啓蒙
女子4. 強化	全日本女子フットサル大会の 全国大会に出場する	実績なし、北信越大会で敗退	0%	チーム/選手が少なく競技力が低い	チームでの強化のサポート リーグ立ち上げによる競技力向上
女子5. 強化	女子ユース大会で 全国大会に出場し 決勝ラウンドに進む	2022女子ユース全国大会に出場したが 予選リーグ敗退 2戦2敗	0%	チーム/選手が少なく競技力が低い	チームでの強化のサポート リーグ立ち上げによる競技力向上

下越地区

ビーチ1. 普及	具体的な競技者数は未設定	競技者数・チーム数は把握できていないが減少している		ビーチサッカーを知られていない	体験会やイベント開催を増やす ビーチサッカーの魅力を発信 SNS/HPなどで積極的に認知を高める トレーニングとしてビーチサッカーがサッカー・フットサルに有効なことの認知向上を努める
ビーチ2. 強化	代表レギュラー選手を輩出	まだ代表輩出はない (県内から日本代表候補2名2022年度)	0%	代表としての競技力に達していない 国際経験が足りない	新規大会を創設し、強化を図る 強豪チームや海外チームで経験値を高める
ビーチ3. 強化	新規大会を創設	大会数が少なく県内強化が難しい	50%	冬の時期の開催が困難	県外にて開催を模索する
ビーチ4. 審判	具体的な競技者数は未設定	ビーチサッカーの審判員が少ない	20%	ビーチサッカー審判取得を目指す人が	審判委員会と連携する ルール習得を目的に若い世代に資格取得を推進する
ビーチ5. 指導者	AFCビーチサッカーコーチング コースレベル1受講者3名	AFCビーチサッカーコーチング コースレベル1受講者1名	33%	ビーチサッカー指導者養成コースが 知られていない	指導者養成講習会の情報を展開し 広く希望者を募る
ビーチ6. トップ リーグ連携	県内で全国大会を開催する	現在はトップリーグがない	0%	リーグ参加条件を満たすチームがない 全国規模の大会開催実績がない	リーグ参加条件を満たすチームづくり 全国規模の大会にチームを出場させる 全国規模の大会を開催する
下越1. 普及	チャレンジリーグ参加 20チーム オープン部の部 10チーム シニアの部 10チーム	チャレンジリーグ参加 10チーム オープン部の部 5チーム シニアの部 5チーム	50% 50% 50%	さまざまなカテゴリでのプレー機会 大会形式を工夫して参加チームを増やす がまだ不足している	会場の確保が必要 近隣市町村単位で会場を確保して 予選リーグを開催 2種の参加が少ない 2種チームが参加しやすいよう 参加条件緩和
下越2. 普及	ファミリーフットサル参加者 300名	ファミリーフットサル参加者 200名 (2019年度)	67%	フェスティバル参加人数伸び悩み	開場を分散させて参加者の 掘り起こしをする 告知方法の見直し イベントのインフォメーション HPから申込可能に SNSで関係者にシェアしてもらおう 簡単なエントリー方法確立 市町村協会に運営ノウハウがなく 開催が困難 市町村協会と連携 運営ノウハウの提供
下越3. 強化	県リーグ参加 2チーム	県リーグ参加 0チーム (2022年度)	0%	競技志向のチームがない 競技力の高いチームがない	チャレンジリーグ 参加チームのレベルアップ ・県リーグの試合をエキジビション マッチとしてチャレンジリーグ 開催中同会場にて行う ・講師を招いてクリニック開催 (指導者、レフリー) ・招待チームを招いての強化試合開催
中越1. 普及	ファミリーフットサルフェスティバル 安定実施参加者200名	ファミリーフットサルフェスティバル 実施が不安定	80%	参加チーム数が安定しないため 開催が安定しない	安定的に参加チームを確保するため ・告知方法の工夫 簡単なエントリー方法確立 イベントのインフォメーション HPから申込可能に SNSで関係者にシェアしてもらおう
中越2. 育成	ファミリーフットサルフェスティバル 付帯イベントに2種チームからも参加	ファミリーフットサルフェスティバル 付帯イベントに2種チームの参加なし	0%	付帯イベントに2種の参加が少ない	2種チームが参加しやすいよう 参加条件緩和
中越2. 普及	地区としてのフットサル振興	種別それぞれの盛り上がりはあるが、 地区としての連係に乏しい	40%	地区として目指す状況の目標設定 目標に向けての役割分担と実施	地区フットサル・サッカー関係者との連携 地区委員会としての組織づくり フェスティバルなどのイベント実施
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2026年目標に向けての2022年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

NIFAアクションプラン2022→2026					全体 18 頁中の 18 頁
5. 具体的アクション					フットサル 委員会・連盟
No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
委員会	委員会関係者	機会があるごとに	いろいろな場所で	フットサルの普及、育成、 について	関係する人たちと情報交換し 施策を打っていく
委員会	地区協会委員	各年度に	それぞれの地区で	フットサルフェスティバル	開催する（下越2回以上、 新潟2回、中越1回、上越1回）
	ビーチサッカー 担当が	各年度に	県内の複数の場所で	ビーチSフェスティバルを	開催する
委員会	それぞれの大会 の担当者が	機会があるごとに  大会実施にあたって	いろいろな場所で  大会準備にあたって	大会への参加を  大会開催時期、告知、実施	チームや選手に働きかける  改善し続ける
委員会	技術担当委員	各年度に	県内のいくつかの場所で	ライセンス講習会をできる 多く	企画し、関係者をと調整し、 開催する
連盟1 連盟7	シニア担当者	2024年度までに	県レベルで	新潟県シニアリーグプレ大会	開催し、登録選手数を増加させる
連盟1 2, 5, 6 委員会4	U-18担当者と 員会技術担当が	2024年度までに	県レベルで	新潟県U18リーグプレ大会を 同時に指導者講習会を	開催し、登録選手数を増加させる 競技フットサルへの関心を高める
連盟1 委員会	女子担当者と 員会技術担当が	2024年度までに	県レベルで	新潟県女子リーグプレ大会 同時に指導者講習会を	開催し、登録選手数を増加させる 競技フットサルへの関心を高める
連盟3	担当者が	2024年度までに	北信越リーグに	Fリーグ参加意思あるチーム	送り出し、サポートする
連盟4	担当者が	2024年度までに	北信越大学リーグに	参加するチームを	送り出し、サポートする
連盟8	理事長が	2023年度に	連盟理事会において	連盟組織を 組織図及び人員配置表を	改変し 作成する
連盟9	リーグ担当が	2024年度までに	県、北信越レベルで	リーグ戦を	計画し、運営する
連盟10	広報担当が	2024年度までに	県、北信越レベルで	ホームページによる情報提	推進させる
女子1	女子担当が	2023年度より毎年冬期に	県内の複数の場所で	リーグ準備の普及大会を	計画し、開催する
女子2	女子担当が	各年度に	いろいろな場所で 女子委員会と連携して	女子選抜活動の認知度を 上げる活動・案内を	行う
	女子担当が	各年度に	県内で 女子委員会と連携して	能力の高い選手の 発掘・育成となる活動 ・案内を	行う
	連盟が	各年度に	大会において	選手のパフォーマンスの 維持・向上の目的に	トレーナー派遣を行う

女子4	女子担当者が	各年度に	県女子フットサル大会で	県女子フットサル大会に参加するチームを 県女子フットサル大会の開催を	発掘し、継続してサポートする 充実させる
女子5	女子担当者が	各年度に	県女子ユースフットサル大会で	県女子ユースフットサル大会に参加するチームを 県女子ユースフットサル大会の開催を	発掘し、継続してサポートする 充実させる
ビーチ1	ビーチ部会が	各年度に	県内で	体験会・イベントをその様子を参加者の興味を	開催し ネットで発信し引き出す
ビーチ2	ビーチ部会が	各年度に	県内で	県内有力選手を代表レギュラー選手を	海外経験させ輩出する
ビーチ3	ビーチ部会	各年度に	県内で	主催大会を県内チームのレベルアップ	増やし 図る
ビーチ4	ビーチ部会と 審判委員会が	各年度に	県内で	若い世代のプレーヤーを対象とした審判講習会を ビーチサッカー審判員を	開催し 増やす
ビーチ5	ビーチ部会と 技術担当が	各年度に	講習会開催地で	有力指導者にAFCビーチサッカーコーチングライセンスコースを	受講させる
ビーチ6	ビーチ部会が	2026年度までに	県内で	トップリークを	開催する
下越1,	下越各委員が	各年度に	下越地区協会内で 大会会場で	各市町村協会の現状を 各市町村協会の施設について 大会実施について 大会運営方法について 実施状況を	情報共有する 把握する インフォメーションする 説明する 見学させる
下越2	下越各委員が	各年度毎に	フェスティバル会場で	フェスティバル実施について フェスティバル運営方法について 実施状況を	インフォメーションする 説明する 見学させる
	下越委員会が	2023年中に	下越委員会	ホームページを	再度作成する
下越3	下越各委員が	各年度毎に	県連盟で	県リーグ日程を	チャレンジリーグ日程に 組み込んでもらう
	審判委員が	各年度毎に	チャレンジリーグ内で	レフリングのアセスメント	行う
中越1	中越委員会が	2023年度から	中越地区で	ファミリーフットサルフェ	安定して実施し、継続する
中越2	中越委員会が	2023年度から	中越地区で	参加条件を 付帯事業に2種チームが	改訂し 参加しやすくする
中越3	中越委員会が	2023年度以降	中越地区で	地区サッカー・フットサル地区としての方向性・目標 解決に向けて	協力しながら 定め、 アクションを起こす
↑ 現状分析での事項No. に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です					